



前期研修会にて（平成22年8月）

会報 全国文化財壁技術保存会

第 11 号

平成二十三(二〇一一年)三月二十日発行

編集 全国文化財壁技術保存会

発行 愛知県江南市力長町

大当寺 二二八

TEL (〇五八七) 五九一八〇〇〇

会長 佐藤 治男

会の代表を勤めて早三年目に入りました。平成22年度事業として8月1日に姫路城三の丸広場にて、姫路市内の小中学生を対象に夏休み子供体験会「漆喰で姫路城を描こう」を姫路市立城郭研究室と本会の共催事業で行いました。当日は会員等29名が各地より集まり、指導にあたりました。城郭研究室の上田室長、本会の津田誠一様には企画から開催まで大変ご尽力いただきました。また指導いただきました会員の皆様に感謝しています。

8月23日から28日まで前期の「左官伝承者養成技術研修」を

行いました。この度は、文化財建造物保存技術協会の中堅研修に、研修生7名の皆さんが参加され、三和土や版築の材料造りから仕上げまでの工法を勉強されました。大変有意義な研修であり、今後も機会があればやりたいと思っています。

9月19日・20日に「文化財保存技術2010」が平城宮跡の奈良文化財研究所で開催され本会も参加をし、多くの皆様に展示をみていただきました。奈良では以前、会員が多かったのですが現在はほとんどおられない状態です。そこで奈良県文化財課の方に、保存工事に携っていただける左官屋さんの紹介をしていただきました。しかし、本会の手違いにより、この度はお会いすることができませんでした。再度調整し、伝統ある奈良の左官屋さんにぜひ入会を願いたいと思っています。

10月25日から30日に、後期の研修を京都と滋賀県坂本で行いました。日本伝統建築技術保存会の西澤会長、日本伝統瓦技術保存会の山本会長の活動報告、滋賀県文化財保護課の菅原様より県内の文化財保護の現況のお話をいただきました。また、文化財石垣保存技術協議会の栗田会長から石垣について、滋賀県竹組合の藤井副会長から竹の話をお聞きました。実施研修では研修生7名が壁下地の小舞掻き、荒壁付けの研修を行いました。受講生は皆熱心で、今後各地の文化財の壁保存に活躍してくれるものと思っており、将来が楽しみです。来年度は、今まで研修を終えた技能者が、次のステップに上がるための手助けにもなる中級研修の開催を考えています。外部の有識者にも採点をいただくなり、さらなる技能の向上をはかりたいと考えています。

ます。会員の一部には、めずらしい仕事があれば若い技能者に声をかけ、勉強会も行っておられます。また、材料の入手方法など考えなければならないと思っています。鋳等道具は主生産地の兵庫県三木市について、現在私が調査を進めており、今年中には皆様にご報告できるものと思っています。

左官仕事は各地域で異なりますが、それが特色であり文化財でもあると思います。今後、地域の独自性を活かしながら、連携と協調のもと、文化財壁技術が継承していけるよう努めてまいりますので、会員の皆様、関係の皆様、さらなるご支援・ご協力をお願い申し上げます。

副会長 安達 保信

日頃、関係各位様には多大なるご支援を本会に頂戴致し、誠

に有難く感謝申し上げます。

平成22年度の研修として、伝承者養成基礎コースを、前期8月23日より28日迄の一週間、後期10月25日より30日迄の一週間行いました。

前期では、前半を講義・見学とし、後半は実地として土間叩き工法・版築工法を行いました。今回の基礎講座は、新規養成者の為、文化財修理に携わる者としての心構えや、保存修理の意義と言った根本的な意味を充分に講師先生から学ぶ事が出来たと思います。見学は、最近希少となった、鋳鍛冶と苅の製造です。その製造過程を見ることで、実地の作業に生かされると思います。後半の実地研修は、文化財修理には欠かせない版築技術で、土地柄の材料の相違や、それによる配合比率の変化工法の工夫等を研修しました。

後期も同じく前半に見学を行

い、古建築の原点とも言われる奈良の平城宮跡復原で、平安京までの姿がしのべれたと思います。又、京都の聚楽土の原土塊等、中内建材様で見ることができました。木工事の講義では、我々と密接な関係の仕口・継手の組方といった、鋳塗作業と違った思考、イメージ造り等を教わりました。又、屋根瓦の講義では、左官と同じ土を原料とした焼き物であり、歴史的な出発も同じ頃で、共に建物を支えてきたことが再確認できました。今回新たに、穴太積の石垣を見学し、建築以前の土台となる石積の凄さも実感しました。実技は壁の最初である竹下地組で、薄壁用・一般用・厚壁用の三種についての施工法、又、材料の竹・縄・よし・あし・そだ等の見分け方も習いました。

来年度も基礎コースの研修を行う予定としています。

第18期（平成22年度） 総会及び研修会

平成22年5月11日に京都市で第18期定期総会と研修会を開催しました。来賓には、(社)全国国宝重要文化財所有者連盟事務局長の後藤佐雅夫様、姫路市立城郭研究室長の上田耕三様にご出席をいただきました。平成21年度の事業報告及び収支報告、22年度の事業計画及び収支予算案の審議、役員改選の審議を行い、原案のとおり承認されました。新会員では準会員に小林常司様、石動信明様、足立三喜男様、賛助会員に吉田鐵太郎様の入会が報告されました。また、選定保存技術左官（日本壁）伝承者養成技術研修会受講終了者の、水野秀紀、吉川司、大石晃司、及川敏、小迫傳、山本登、志村まい子、7名の研修生の皆さんに終了証を交付しました。これを

励みに益々のご活躍を願っています。



佐藤会長より修了証書の交付

総会に先立ち、名勝「涉成園」を見学し、多様な壁や修理を見ることができました。



涉成園の見学

文化財保存技術2010 文化財を支える伝統の名匠

文化庁の主催により、平成22年9月19・20日、平城遷都1300年祭で賑わう平城宮跡会場にて「平城宮跡で、匠の技と出会う」ともと開催されました。会場では講演やシンポジウムが行われるとともに、選定保存技術保存団体による展示・実演・体験等が行われ、本会は展示を行いました。多くの来場者に見ていただきました。



展示

「文化財建造物保存活用 公開セミナー」

平成22年11月6・7日「文化財建造物保存活用公開セミナー」が文化庁主催により「京都市文化財建造物保存技術研修センター」で開催されました。全国文化財壁技術保存会をはじめ伝統技術の保存団体であります6団体が参加しました。展示や実技体験を行い、広く市民の皆様理解を深めていただく機会になりました。



本会の活動風景の展示

夏休み子ども体験会 ―漆喰で姫路城を描こう―

姫路市立城郭研究室と本会の共催で、平成22年8月1日に姫路城三の丸広場において漆喰で姫路城大天守を描く体験会を開催しました。60名の小・中学生、及びご父兄の皆さんが参加されました。企画の発案者であります本会の津田誠一様、佐藤会長をはじめ会員29名の手ほどきにより、それぞれの作品を完成させました。



伝承者養成技術研修会

文化財壁技術の継承を図るため「左官（日本壁）伝承者養成基礎講座」を、7名の研修生で行いました。前期は8月23日～28日、武内正和文化庁文化財調査官による「日本の文化財建造物保護について」の講義をはじめ、岡山理科大学の江面先生には文化財修理の心がまえを、京都府文化財保護課の鶴岡様他講師の方々から文化財修理についての講義をいただきました。また、兵庫県三木市の鋺製造を見学し、土間タタキの実技を行いました。後期は10月25日～30日、壁土の製造見学、伝統大工、伝統瓦、竹材料の講義、文化財石垣保存技術協議会の栗田会長から石積みの講義などをいただきました。また、実技研修として木舞掻きを行いました。



文化財保存の講義



文化財保存の講義



鋺製造所



下地竹見学



鋺の製造



竹についての講義



藁苅づくり



小舞竹づくり



小舞かき



下げ縄下げ



荒壁塗り



裏返し

研修を終えて 平成22年度研修生の感想

◆ 荒木 孝行

平成22年度・左官（日本壁）
伝承者養成基礎コース研修前期
後期に参加させていただきまし
た。貴重な講義の内容をお話さ
れた各先生方、そして各地から
来られた研修生達と勉強ができ、
自身にとっても良い刺激に
なりました。

私は、あじま左官工芸に入社
して4年になりますが、文化財
の建造物に1年ぐらしか携わっ
ていないので、この研修を通し
て、文化財に対し基礎となる知
識と志を持って仕事にあたる必
要があることを勉強させていた
だきました。後々も文化財の仕
事に携わって行こうと思ってい
ます。そして後世の左官職人達
に恥じない仕事を残していけた

らしいなと思います。

(株)あじま左官工芸・東京都

◆桑路 幸一郎

全国文化財壁技術保存会の伝承者養成研修会に参加させていただき大変勉強になりました。

伝統的な左官仕上げはまだまだ勉強しなければなりません、まずその前に、文化財の修復工事に当たるものの心構えや精神などを、たくさん講師の先生方に教わることができました。

また、鏝をつくる職人の気持ちや材料(土・苳・竹)などを扱われている方々の気持ちなど、正直、今まで考えもせずに仕事をしてきたので、大変勉強になりました。

今回の研修で一番感じたのは、左官職人としての心構えの大切さです。これから仕事をしていく中で常にそれを意識し、左官職人として恥ずかしくないよう

にプライドと信念を持って日々の生活を送っていききたいと思います。

最後に、講師の先生方・壁技術保存会会員の皆様ありがとうございます。

ございました。

(桑路建塗(株)・兵庫県)

◆桜田 哲司

この度の研修では色々な経験をさせていただき、ありがとうございます。

文化財建造物保護の歩みは、明治30年に制定された古社寺保存法が始まりで、昭和25年文化財保護法により、古い建物の保存のため手厚い援助が始まったとの事でした。

また、地元の姫路城の特徴は、漆喰(消石灰、貝灰、マニラ苳、晒苳、を銀杏草の煮汁で練ったもの)で、土壁の上に、六分あるいは一寸の厚さで仕上げる事が特徴のようです。

左官の呼び名は、古代では「土工」中世では「壁塗」近世には「左官」と呼ばれるようになったそうです。

前期では、土のたたき仕上がり、始めにジャリをひきしめ、土の配合土1、砂2、ビリ(砂利)0.5、石灰0.8、ニガリ4kgそれをミキサーで練り合わせ、約10cmの厚みを5cmまで叩きこんでいく作業が楽しかったです。

後期では、伝統大工の西澤政男先生の色々な話を聞けてよかったです。

竹の特徴の勉強をさせてもらい、竹は木か草か? 上田先生曰く「竹は竹だ」との名言が心に残っています。

瓦の歴史、瓦の事は知らない事ばかりでしたが、山本清一先生の話聞き勉強になりました。栗田先生の講義による、穴太衆の起源、石の積み方の話も知

らない事ばかりで勉強させていただきました。

津田誠一社長の木舞掻きが3日間あり、本大和掻、男結び、竹の割り方から勉強させていただき、結び方があまり分からず何回も教えていただき嬉しかったです。

この研修の思い出、勉強を生かし、これからも左官という仕事についてもっと勉強していきたいと思っています。

(株)山脇組・兵庫県

◆永井 宏和

前期では、初日から地元の姫路で講義があり、姫路城の美しさや歴史について改めて良い勉強になりました。

また、鏝製造見学では、杉田氏の素晴らしい技術を見せていただき、いつまでも良い鏝作りを続けていただきたいと思います。

津田さんには、土間タキ・版築といった貴重な体験をさせていただきました。材料の配合は工法など、実践で役立てたいと思います。

後期の初日は京都からでした。中内さんによる土製造見学では、いろんな土などを見て、塗ってみたいと思いました。

大工・瓦・石積などの講義は勉強になり、興味深い話でした。

大津では、前期でも大変お世話になった(有)津田左官工業所において、木舞かき、土付けの実技があり、木舞かきでは竹の性質などを勉強し、編み方においてもいろんな編み方を教わりました。土塗りでは、手打ちなどをさせていただきました。また、男結びの工法や、藁による縄作りなどよい経験が出来ました。

この度、佐藤会長をはじめ、講義していただいた先生方々、研修生の皆さんには大変お世話

になりました。貴重な経験、勉強が出来てよかったです。

(株山脇組・兵庫県)

◆ 淵田 桂太

前期では、一番興味のあった施工側の講師の方々の話です。皆様共通して、伝統工法に対する厳しい現実を語られていました。

私は、良い物を観ていなければ良い物は分らないと思っています。ここでは良い物の定義は措いておきますが、コンクリートに囲まれて育ちプレハブ住宅しか知らない、何事にもスピードが求められる現代では、自分から求めなければ伝統建築しか、自然の営みを感じられずに過ごして行くのではないかと思います。

日本文化を日本人が伝え守って行かないでどうするのか? 「早い安いうまい」もちろんこ

れらも大事ですが、忘れてはいけない物があるのではないか、効率ばかり重視しては、中国やインドのように、人海戦術の如くこなしていく国々に勝ち目があるであろうか?

他の国を圧倒する技術力で誰も追いつけない所まで行けば、日本の力を示せるのではないかと。それにはやはり日本人としての伝統、誇りを皆が持てる国づくりをしなくてはいけないと思います。我々の仕事はそれらを取り戻す糧に多少なりとも役立てると思っていますし、そう信じています。

先人達が知恵を絞り長い年月をかけて築いてきたものを、利用しない手はないと思うのです。が。。

私は土壁が大好きなのですが、土壁にはやはり伝統工法でないと、その能力を完全には活かせないと思っていますので、益々

頑張っていかなければならないと思っています。

研修会に思うことは、人との交流やつながりが一番の土産、財産ではないかと思っています。

今回の講習への希望としては、鼠漆喰や並大津、撫で物仕上げ等、頻繁にはやらないが、まわってくる試行錯誤する仕上げについて学べばと思います。

なかなか色褪せない色物仕上げを見かけるのですが、ただただ感心するばかりです。

見学については、数奇屋建築や桂離宮など、左官や大工仕事の花形建築を皆で観る事が出来ればと思います。

今回の講習では、現場に活かせる鰻絵の講習や土佐漆喰の講習があるとの事なので、とても楽しみです。

これからも日々邁進して行きます。

(中島左官(株)・愛知県)

◆ 本田 英雅

壁保存会の講習にあたって、文化財建造物の修復に携わる者として自分のレベルを上げたいと思いました。知識を深め、技を磨き、修復に対する考え方を向上できる場になると期待しました。

講義では、文化財建造物とはどういうものかをはっきりと知ることができました。そして修復に対する考え方を知ることができました。また、文化財建造物の修復に携わる他の職方の話が聞けたのは貴重な事でした。実技では、小舞下地で普段やらない多くの方法を知って、自分なりに考える事ができました。実技に関しては問題があると思われました。一つの課題に対して、皆で「さあやって下さい」では無く、一人一人が確実にレベルアップ出来るように、課題

は個々がその一つの課題についてすべてを出来るようにならないといけないと思います。課題について教科書を作って、講習参加者は教科書にそって事前予習して疑問点を出してから実技講習に臨むことが本当のレベルアップに繋がると思います。まず課題について数ヶ月前に告知するとともに、資料なり教科書なりを配布して予習可能とする事、課題は個人個人が完結出来るものであることが必要だと思います。

今回の講習でのもう一つの大きな収穫は、同じ文化財修復の左官工事に携わる人達と知り合えた事でした。貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

(左官業佐藤・京都府)

◆ 御園 拓馬

前期の講習が終わって。

文化財とはなにか、文化財とはどう残して行くべきか、どう施工したら良いのか。沢山勉強になりました。

講義の時には、同じ文化財の仕事に関わる異業種の方々の話を聞かせていただき、文化財に對しての姿勢や考え方、思い、普段聞くことの出来ない事を沢山聞くことが出来ました。異業種の方と話をすると同じ物を見ているのに、物の見方、感じ方が全然違う事に気付かされました。

なぜこの建物、壁を残すのか、なぜ新しいものに取り替えるのか、ではなくて、古いものを再利用して使うのか。なぜ先人はこうやって仕上げたのか……。

など、まだまだ分からないことが沢山ありますが、講習を通じてこれからも沢山のことを学んで行きたいと思いました。

今回の教えて頂いたことを現

場で仕事をしている自分が実行し、施工して、この先も沢山の文化財が残っていくようにしたいと思います。講師の皆様どうもありがとうございました。

(本田左官工業所・大阪府)

編集だより

佐藤会長、安達副会長から本年度の活動概要や思いを寄せていただきました。また、研修生の皆さんからは貴重な感想をいただき、ありがとうございます。編集にあたり、保存会事務局の佐々木様には大変ご尽力を頂き、御礼申し上げます。

(編集事務局 上田・中嶋)



会 員 名 簿

	会 員 名	住 所	事業所名等
正 会 員	佐 藤 治 男	京都市左京区下鴨南茶ノ木町 23-4	左 官 業 佐 藤
	安 達 保 信	京都市下京区花屋町通り間の町西入る天神町 411-2	(有) 安 達 左 官 店
	中 嶋 正 雄	愛知県江南市力長町大当寺 128	中 島 左 官 (株)
	田 代 益 市	京都市下京区猪熊通り塩小路下がる上夷町 165	(有) 田 代 千 治 店
	石 田 貞 男	さぬき市大川町富田中 2147	石 田 左 官 工 業
	小 林 錦四郎	和歌山県有田郡湯浅町湯浅 2132-17	小 林 左 官 店
	津 田 誠 一	大津市下坂本 1 丁目 20-22	(有)津田左官工業所
	山 脇 一 夫	姫路市飯田 1-24	(株) 山 脇 組
	奥 井 五十吉	奈良県橿原市出合町 83 番地の 1	(株) 奥 井 建 設
	浅 原 雄 三	京都市山科区大宅沢町 185	し っ く い 浅 原
	梅 川 由紀子	京都市右京区西京極午塚町 58-1	梅 川 建 設 (株)
	片 田 儀 斎	京都市上京区西洞院中立売下がる菊屋町 3315	片田儀斎営業所
	本 田 俊 之	大阪府八尾市刑部 4-270	本田左官工業所
	松 本 勉	高知県安芸市井ノ口乙 1202-3	(有)左官 松本組
準 会 員	阿 嶋 一 浩	東京都葛飾区青戸 8 丁目 19-11	(株)あじま左官工芸
	足 立 三喜男	兵庫県三木市緑が丘町東 1-3-4	足 立 組
	石 動 信 明	石川県金沢市神田 1 丁目 31 番 1 号	(株) イ ス ル ギ
	桑 路 丸 幸	兵庫県神崎郡市川町沢 115-2	桑 路 建 塗 (株)
	小 迫 傳	鹿児島県出水郡長島蔵之元 3246 の 1	小 迫 左 工
	小 林 常 司	京都市中京区東洞院蛸薬師下る元竹田町 639-11	左 司
賛 助 会 員	北 野 一 成	大阪府堺市中央区深井北町 104- 2	(株) 北 正 商 店
	中 内 庸 司	京都市上京区浄福寺中立売上る東西俵屋町 157	中 内 建 材 店
	宮 谷 邦 夫	兵庫県三木市別所町朝日ヶ丘 35 番地の 69	宮 谷 製 作 所
	村 檉 太 郎	栃木県佐野市宮下町 1 番 10 号	村 檉 石 灰 工 業 (株)
	吉 田 鐵太郎	千葉県いすみ市岩船 196	(株)吉田鉄五郎商店